

前橋の人口: 33万8,190人
男: 16万5,612人
女: 17万2,578人
世帯数: 14万7,014世帯
10月末日現在



南麓に暮らす よろこび

赤城山の南麓には
厳しくも豊かな自然と
互いを尊重し
新たな価値をつくり出す
暮らしがあります。
その暮らしから
今を生きる私たちの
幸せのヒントを見つけます。



ちたあ いぐんべえ!? に スローに

赤城の山裾南麓暮らしと
私たちの幸せのカタチ

「ちよぐら」

インターネットや物流網の発達で、
私たちの生活はどんどん便利に。
けれど、生身の人と人、人と自
然の関係は希薄になりがちです。
一方、前橋市の北、赤城山

の恵みいろいろ

いよかん入りは
さっぱりとした
風味。

クランベリーは
デザートの
ような味。



ThreeBrown 松島さん一家

とその南麓には、厳しくも豊かな自然と向き合い、便利さとうまく付き合いながら自分らしく豊かに暮らす人がいます。彼ら「南麓人」の暮らしから、今を、そしてこれからを生きる私たちの幸せのカタチを考えます。

岡市政発信課

☎027-898-6642

牛たちと共に 丁寧な仕事を

粕川町中之沢で7頭のブラウンスイス牛を飼い、そのミルクでチーズやジャムなどを作り、自社店舗やイベントなどで販売する、チーズ工房・Three Brown^{スリーブラウン}の松島俊樹さん・薫さん夫妻。日々の暮らしをこう語ります。

「長年の夢をかなえ、7年前に3頭の牛たちとチーズ作りを始めました。家族経営なので数は限られますが、おいしいと言ってくれるお客様を思って作っています」と俊樹さん。妻の薫さんは「今の品質を保つため、牛は増やしても10頭までと決めています。互いに健康を気遣い、牛たちと一緒に、丁寧に仕事をしていきたいと思っています」と続けます。

南麓の土が、草が、私たちが育み、生かしてくれる。俊樹さんと薫さんが協力し、私たちが大切にしてくれる。二人の思いが込められたチーズは、優しく豊かな「南麓の味」がするんだモ〜!!

赤城南麓 牛たち

ひょうたん型の
チーズ、
カチョカバロ。



フロマージュ・
フレの「ドリー」は
フレッシュチーズ。



ちよっくら = ちょっと ちったあスローにいくんべえ = 少しゆっくりいきましょう



自然の恵みと伝統の宝庫



連綿と受け継がれる 献上行事



北爪 久夫さん (鼻毛石町)

献上行事は、昭和25年から宮城地区で行われている行事。粟を皇室に献上する農家は持ち回りで、最近では刈り取りに、地元の小学生も参加しています。今年栽培を担当したのは北爪久夫さん。

「献上する齋耕者に決まった時は、大変光栄で気が引き締まる思いました。天候の心配などがありました。経験のある先輩、地域の皆さん、妻など、さまざまな人たちの協力があり無事収穫することができました。農業者の減少なども課題ですが、私の父も献上した歴史ある行事なので大切にしていきたいですね」

赤城山の神と伝統を守り伝える

赤城山を神体とし、神社の神明帳によれば、関東から東北まで約

豊かな自然と伝統 守り伝える難しさ

群馬県が誇るご当地かるた
「上毛かるた」にも詠まれ、
富士山に次いで日本で2番目に
長大な裾野を持つ赤城山。
その南麓には、
雄大な自然と、
そこに由来する伝統文化が
息づいています。
それらは、
そこに暮らす人々を形作る
大切な要素。
「南麓人」ともいえる彼ら彼女らは
さまざまな思いを紡ぎながら
それらを
守り伝えていきます。

「自然と伝統みんなの町」



「月田のささら」



「沢家住宅」



豊かな自然がもたらす恵みを享
受し、後世に伝える南麓の人々。け
れど、そこには課題もあります。少
子高齢化と、それに伴う耕作放棄
地の増加や有害鳥獣などの問題。自
然や伝統文化は、そこに暮らす人々
の努力により守られているのです。



三夜沢赤城神社宮司
真隅田 吉安さん
(三夜沢町)

190の分社を持つ三夜沢赤城神
社。古来より多くの人々の心のよ
りどころになってきました。毎年
5月の例大祭では神楽や赤城南麓
地域の小中学生が剣道・空手を奉
納し、新年には農作物の吉凶を占
う筒粥神事を行うなど、地域の人
々とのつながりも続いています。
「広い境内では、シカやイノシ
シなど、有害鳥獣の侵入や樹木管
理など手の掛かることも多いです
が、伝統を守り伝え、この地域の
魅力を支えていきたいと思えます」
と宮司の真隅田吉安さん。
伝統を守る「南麓人」。彼らの
思いで、地域の宝は守られます。

なっからいいがね = 相当いいね

よいじゃあ
ねえけど

取り組みいろいろ

南麓人

赤城南麓を取り巻くさまざまな課題。それらに対し、伝統を守る人、さらに、伝統の中から新たな価値を生み出そうとする人たちがいます。そんな彼ら「南麓人」の素顔に迫ります。



ここだけの味を
守りたい

仲間と共に時沢大根を復活・栽培

奈良清

（富士見町時沢）

時沢大根は、江戸時代には前橋藩に献上されたという伝統野菜。たくあんに適した大根として数多く生産され、首都圏へも出荷されていたそうです。生産者の高齢化で栽培量が激減していたところ、伝統的なものを見直そうと富士見商工会の有志でプロジェクトを立ち上げ、時沢大根を復活させることに。メンバーの1人、奈良清さんはこう話します。

「種探しから育て方まで、分からないことが多くて最初は大変でした。私は元々設備業で、自分が農業に関わるとは思っていませんが、手間を掛ければいい物ができる。そこにやりがいを感じています」。今後は食べ方や加工方法もさらに研究していきたいと意気込む奈良さん。

「食べた人に、こんなもんか、なんて思われたいよう、この味を守りたいですね」

メンバーの思いの込もった大根は歯応えの良い「南麓の味」です。

2週間弱干すと歯応え抜群のたくあんになるんです！



南麓の地で、一振り一振り
心を込めて刀を鍛える

刀工
高橋恒厳

（富士見町石井）

市内唯一の刀工として、富士見町石井に鍛刀場を構えて8年。山形市の刀匠・上林恒平さんの下で修行を積んだ高橋恒厳さんは、地元前橋での独立を決意。独立に当たり、刀作りに適した場所を探すのは大変だったといいます。

「玉鋼を工具で成型する時には大きな音が出るので町場では迷惑になってしまうし、材料の加工などをするのでそれなりの敷地も必要でした。条件に合う土地を探すのには苦労しましたが、親戚のついで今の場所に決めることができました。ここは落ち着いた環境で、仕事にも集中できます」

静かな環境でひたむきに刀作りに励む高橋さん。彼の生み出す刀は、赤城南麓の地が育む力強さと繊細さを宿す「南麓の逸品」です。



納得いくまで鍛えます



よいじゃあねえけど = 大変だけど

ぶざまなものは 見せられない



江戸時代末期、疫病払いのため
に始まったといわれる暴れ獅子。
毎年7月下旬に大胡地区の祇園ま
つりで行われる暴れ獅子は、獅子
を激しく上下に動かし、尻尾から
発生する風で邪気を払う、荒々し
く勇壮な行事です。今年、現場を
仕切ったのは古澤正さん。

大胡町青年会会長

古澤正

(樋越町)

「体力的にはかなりきついです
けど、歴代の先輩たちの厳しい目
もあり、ぶざまなものを見せるわ
けにはいきません。毎回気合いと
誇りを持って臨んでいます」
伝統の祭りは、地域の若者たち
の誇りによって連綿と受け継がれ
ています。

年を取っても 続けたい

約400年前から伝承さ
れてきた大前田諏訪神社の
獅子舞。伝統を受け継ぐ芽
は着実に育っています。

大前田の獅子舞「獅子っ子」



見ている人に楽しんでもらえ
ればと思って舞いました。

茂木直太郎

(大前田町)



獅子頭は重かったけど、
頑張りました。

中澤 怜

(大前田町)



歴史ある獅子舞には、小さい
頃からあこがれがありました。

神道臣

(大前田町)

伊藤 武

(茂木町)

地域おこし協力隊

赤城南麓を 食で元気に



地元の皆さんとレシピを試作



今年7月、さいたま市から移住してきた伊藤武さん。以前は都内で調理人として働いていました。「協力隊に応募したのは、調理人という自分の技術と地域の素材を生かして、地元の皆さんと一緒に地域を元気にしていきたいと思ったから」。地元産のニジマスなどを使ったレシピを考案中で、新たな「南麓の味」の誕生が今から楽しみです。

地元と共に活性化に取り組み協力隊。彼らが果たす役割について、前橋地域づくり連絡会委員長の鈴木正知さんはこう語ります。「地域の課題を自分たちだけで解決するのは難しいです。そこで大事なのが横のつながりです。ほかの団体や地域と解決方法を出し合って互いを補完し合う、この循環がいろいろな場面に広がれば、前橋の魅力はより磨かれます」

個性豊かな「南麓人」。彼らの取り組みは地域の個性となり、地域の魅力となっていきます。



鈴木 正知さん

本物に触れる体験を赤城南麓から

南麓人

まえばし農学舎の取り組み

赤城南麓地域で、「本物にふれる特別な体験。」をとおして、その魅力を伝えるイベントなどを企画・運営するNPOまえばし農学舎。昨年7月の設立以来、小学生が野菜の土作りから収穫・販売までを体験するあかぎキッズファームやファームイングキャンプ、里山学校など、体験型のイベントを企画・運営しています。野菜栽培・養鶏・酪農などさまざまなバックグラウンドを持つメンバーに、活動の様子やそこに込めた思いなどを聞きました。



上段左から渡邊和典さん、大崎浩樹さん
中段左から大野富彦さん、後閑修司さん、
伊能友和さん、渡邊しのぶさん、小川晶さん
下段左から黛若葉さん、林智浩さん、松島薫さん



渡邊しのぶさん

地域での体験は大切です。

すよね。
えを感じま
そこに手応
いくみたい。
ども学んで
付き合い方な
すると、人との
交流

に
触
っ
ち
ゃ
う
子
も
い
る
し
ね。
渡
邊
し
本
当
は
家
族
や
地
域
が
そ
う
い
う
体
験
を
さ
せ
て
く
れ
ば
い
い
ん
だ
け
ど、
今
は
親
も
忙
し
い
し
ね。
黛
体
験
す
る
こ
と
で
子
ど
も
た
ち
の
表
情
は
ど
ん
ど
ん
変
わ
り
ま
す。
キ
ャ
ン
プ
な
ど
で
家
族
以
外
と
交
流

子どもたちの反応は ストレート

林 南麓の魅力、
それはもう自
然そのもの、
それに尽きま
すね。この環
境を壊さず大切
にし、後世に伝え

林智浩さん



メンバーは皆アツインですよ。

そんならみんなて
やってみんべえ!



まえばし農学舎の活動の様子はこちらをチェック



たくさん食べり！ 前橋産

南麓野菜の魅力を全国に発信
ワタナベファーム・ひろ味工房・野菜ソムリエ
渡邊博美さん（粕川町深津）



野菜栽培だけでなくジュースやジャムなどの加工品も作り、素材に新たな磨きをかけています。



「粕川でずっと生活していますが、人とのつながりを感じながら生活するのが好き。そんな環境で作った南麓野菜の魅力、たくさん伝えていきたいと思います」

おいしい豚肉を味わえます
とんとん広場（三夜沢町）



自社の牧場で育てた豚をハムやソーセージに加工・販売するほか、レストランで提供しています。また、子どもたちを対象にハムやウインナーソーセージ作りを行うなど、食育にも力を入れています。

学校給食には県産・前橋産が



前橋市の給食で使用している野菜の地産地消費率は、国の目標を10%上回る、約40%。地元の特産品を多く使った給食で食育に取り組んでいます。地産地消について詳しくは、本紙12月15日号のワカモノ記者ページをお楽しみに。

そんならみんなできやってみんべえ = それではみんなできやってみよう

たくさん食べり = たくさん食べてね

林 農学舎らしい変化といえ、体験を通じて、食べ物を見る目が養われるということ。親とスーパーに行くときやその値段、味などについて話してみたいです。子どもに伝えると、きちんと反応があるんですよね。食品が提供されるまでにどんな作業が必要なのか、農薬や添加物はどうか、それらを正しく理解することがとても大切だと思います。

伊能 友和さん



自然は厳しいぞ。

の値段が付く、それも理解してほしいな。体験活動から、子どもたちが自然と向き合う僕たちの姿をかつこいと思ってもらえるようになったらうれしいね。自分は農園をやっているけど、大変な思いをしても野菜作りを続けるのは、おいしいと言って食べてくれる人がいるから。学校給食にも野菜を卸しているけど、子どもたちが待っていると思うと、雨でどろどろになっても収穫しなくちゃって思う。ホント、それだけだよ。

大崎 浩樹さん



居場所があるっていいよね。

大崎 この辺り（赤城南麓地域）は、豊かな自然に頑張る人に居場所に、その状態はもう完璧で全てがそろっている状態。だから、ムリに都会に合わせたり、ほかの場所の物まねをしたりするんじゃなくて、自分たちの暮らしを守りながら、多くの人に知ってもらえるようにしていきたいよね。

林 活動していると、周りからの期待も感じます。いい意味でのプレッシャーというか。でも、自分たちは好きで

黛 若菜さん



子どもの変化はすごいだよ。

やっているんですよね。そうできなかったら続かないですし（笑）。最近では、まちなかでも売り手と作り手の顔の見える関係性を大切にするイベントが行われています。そのうちのひとつ、11月に行われた「前橋めぶくフェス」は、県内で頑張る生産者やアーティストなどが集まるイベント。私たちも子どもと一緒にそこに参加しました。野菜を午前中に収穫し、とれたての状態です。

前橋で夢に挑戦
GRASSA・澤井雷作さん(城東町三丁目)



まちなかに米・ポートランドの Pasta 店「GRASSA」日本1号店を開店予定で、現在は移動販売車で県内を巡回。店では地元の新鮮な野菜を使用しています。
「昨年6月まで都内のイタリア料理店の総料理長をしていました。美味しいものがあれば人は来る。この店がにぎわいの種になればうれしいです。自分たちの世代が頑張って、前橋がもっとにぎわえば、よりいいですよね」

買ってくれる人の反応もダイレ
クトで、子どもたちもい
い体験になったよう
ですよ。
黛 あかぎキッズ
ファームなど、本
物に触れる体験活
動はこれからも続
けていきます。観光



値段を付けるのも子どもたちです。

顔の見える関係が、安心安全な、
豊かで質の高い暮らしを広
げます。赤城南麓の豊か
な自然がもたらす幸せの
種。それは、そこに住む
人だけでなく市内全体、
さらには、市外にも広が
り芽吹きつつあるのです。



「前橋めぶくフェス」では丹精して育てた野菜を販売。

市内に広がる幸せの種

地域づくりに詳しいメンバーも
いるので、できれば地元と大手
の旅行会社などと連携してモニ
ターツアーなども企画してみた
いですね。

今あるものを見つめ直し、新
たな価値を見いだし、暮らしを
つくる南麓の人々。

本物に触れる体験、一人一人
顔の見える関係が、安心安全な、

まっとゆっくり

豊かで質の高い暮らしを南麓から

赤城南麓、そして、市内全域
に芽吹きつつある、ゆったりと
した、豊かな暮らし方。前橋市
では、それらを支え、さらには
前橋を象徴するブランドとして
内外にPRすべく、新たな取り
組みを始めています。

スローシティを推進します

豊かで質の高い生活や食文化
と環境を尊重した都市の実現を
目的とし、本市の友好都市・イ
タリア・オルビエート市に本部
を置くスローシティ国際連盟。
今年5月に前橋・赤城地域(芳
賀・大胡・宮城・粕川・富士見
地区の一部)が加盟を認定され



記念イベントではそば打ち体験も

ました。国内では宮城県気仙沼
市に続き、2例目の認定です。
これを記念し、11月4日には記
念イベントを開催。今後は、地
元の資源に軸足を置いた豊かな
暮らしを推奨し、ブランド化を
進めます。

スローシティをリードする存在に

スローシティは伝統文化を守り、互いを
尊重し合い質の高いまちをつくるという考
え方。加盟市町村の人々には、自分たちの伝
統文化に誇りを持ち、若者のための将来を
つくってほしいと思います。前橋・赤城地
域は歴史や伝統が豊かでスローシティの精
神に合っていると思います。先に加盟した
気仙沼市と共に、スローシティの考え方を
日本でリードする役割を期待しています。



スローシティ国際連盟事
務局長/ピエール・ジョル
ジオ・オリベッティさん

おしめえに

地域に根ざし、足元を見つめた暮らしの大切さ

豊かな自然に抱かれ、自らの足元を見つめ、互いを尊重し、ゆつくりと豊かに暮らすことの大切さ、尊さ。赤城南麓はそんな生き方、暮らし方を私たちに教えてくれる、幸せの宝庫です。そして、車で1時間弱の距離にある南麓とまちなか（中心市街地）との調和の取れた関係は、古くて新しい、前橋の価値ともいえるのです。

「ちょうどいい」を
キーワードに

前橋・赤城南麓地区での人々の取り組みやスローシティを取り入れた地域づくりの可能性について、群馬大社会情報学部准教授の小竹裕人さんに伺いました。

「成熟した今の日本には、そろそろスピードではなくて、精神的ゆとりを大切にしたいと思っています。人も多くなってきたらと思

ます。赤城南麓は、元々自然と暮らしが調和した、ゆとりの感じられる地域で、生産と消費のバランスもうまく取れていると思います」。そんな中でスローシティ国際連盟への加盟は、ゆとりある質の高い暮らしを求める人への良いアピールになったのではないかと、話します。

「スローシティの考え方に共感し、地元を愛する若い人が増え、人材の地産地消ができていけば、前橋市の高齢化や人材の流出を防ぐことができるかもしれません」

赤城南麓を含む前橋全体で考えると、都市部と山間部はバランスや調和が取れていて、その関係性や距離感もちょうどいい、と語る小竹さん。この「ちょうどいい」をキーワードに、スローライフに価値を見いだし地域に入る若者に、チャレンジできるプラットフォームを整える必要がある、とのこと。



群馬大社会情報学部公共政策研究室准教授／小竹 裕人さん

行政は景観保全などの適切な規制を行い、そこに住む人は、置かれた環境に甘んじることなく努力と誇りを持って、周辺環境と人々とがゆるやかにつながり暮らししていく。その役割分担で地域の個性に磨きがかかれば、人口減少社会の一つの解決方法になるのです。

確かな暮らしを前橋から

自分らしく働き、自分らしく食べ、自分らしく暮らす。市民一人一人が、豊かな暮らしの定義を改めて考え、自分たちの暮らしに胸を張り、自分で自分の暮らしをつくれる。それこそが、現代を生きる私たちの、本当の幸せなのかもしれません。

南麓の人々のように、力強く、地に足の着いた市民が芽吹き、育つまち。ちったあスローに、まっとゆつくり。そんな前橋の明日は、きっと明るい。



前橋産農畜産物の価値高める 6次産業化をサポートします

☎ 農林課 ☎ 027-898-5841

本市は、付加価値の高い前橋産農畜産物の加工品作りに取り組む、熱意のある農業起業家を応援します。

前橋産農畜産物の加工に取り組み、その商品を直売所などで販売する農業起業家を募集します。審査を経て登録された人には、販売会や研修会、補助事業などの案内をします。詳しくは問い合わせるか、本市ホームページをご覧ください。

申込書の配布＝市役所農林課で。本市ホームページからダウンロードもできます

申し込み＝申込書に記入し、市役所農林課へ直接

来年度に向けた要望調査

来年度以降の6次産業化支援のため、要望調査を行います。補助金額など詳しくは問い合わせるか、本市ホームページをご覧ください。

対象＝市内経営耕地面積が30a以上か、1年間の農畜産物販売金額が50万円以上あった前橋産農畜産物の加工販売を行う個人や法人、団体

調査表の配布＝市役所農林課で。本市ホームページからダウンロードもできます

申し込み＝1月31日(水)までに調査表に記入し、同課へ直接

前橋産農畜産物から生まれた加工品 [1×2×3＝6次産業化]



●生産（1次産業）

後閑養鶏園 千代の厳選卵

赤城南麓の澄んだ空気の中で、のびのびと鶏を飼育し、新鮮で濃厚な味わいの卵を生産しています。



●加工（2次産業）

「朝採り卵のなめらかぶりん」

「朝採り卵のしっとりシフォンケーキ」

新鮮な原材料をもとに、おいしく安全安心な加工品が生まれました。



●販売（3次産業）

イベントなどでも販売

県外のイベントでもPR。前橋産の農畜産物から生まれた加工品は、前橋の魅力を発信してくれます。



将来的には、前橋ポイントの利
用開始手続きや子育てワンストッ
プサービスも利用できるよう検討
しています。

マイナンバーカードのオンライ
ン申請などができる「マイナポ
ータル用端末」を市内の郵便局46カ
所全てに設置。端末からは、カー
ド申請に必要な写真撮影もできま
す。

☎ 027-898-5883

郵便局に利用端末を設置
マイナンバーカード
の申請ができます



渡邊 一正さん



野原 みどりさん

01 群馬交響楽団が本市で公演 まえばし市民名曲コンサート

問 昌賢学園まえばしホール ☎027-221-4321

昌賢学園まえばしホール（市民文化会館）で、まえばし市民名曲コンサート群馬交響楽団定期公演を開催。指揮は渡邊一正さん、ピアノは野原みどりさんです。ブラームス・ピアノ協奏曲などを演奏します。

日時 = 1月20日(土)午後6時30分

費用 = S席3,500円、A席2,500円、B席1,500円
(高校生以下は全席1,500円)

申し込み = 同館へ

03 人事担当者との交流の場 子育て女性の再就職を支援します

問 ハローワークまえばしマザーズコーナー ☎027-256-9321

企業の人事担当者や働く女性との交流会を開催します。参加企業はキャリアアップ、コスモス、コメリパワー前橋店、バンズの4社です。事前予約で託児ができます。

日時 = 12月19日(火)午前10時～午後0時10分

会場 = ジョブセンターまえばし
(大渡町二丁目3-15)

対象 = 再就職を目指している子育て中の女性、
先着20人

申し込み = 同館へ

02 上電で行く前橋市民号 1日で東京の3大名所を巡ります

問 上毛電鉄 ☎027-231-3597

上電で行く前橋市民号を開催します。築地での買い物や浜離宮恩賜庭園散策、隅田川クルーズ、浅草散策、東京スカイツリー天望デッキ入場など、1日で東京の名所を巡るツアー。築地での新鮮寿司ランチと夕軽食が付きます。

集合日時 = 1月13日(土)午前7時5分

集合場所 = 上毛電鉄中央前橋駅（城東町三丁目）

対象 = 4歳以上、先着40人

費用 = 18歳以上1万1,800円、12歳～17歳1万800円、4歳～11歳9,800円

申し込み = 12月6日(水)午前9時から上毛電鉄へ



04 「d design travel 群馬」 発刊記念 d47落語会を臨江閣で開催します

問 D&DEPARTMENT PROJECT ☎03-6427-2301

臨江閣で、群馬の観光をデザインの視点から見るトラベルガイド「d design travel 群馬」の発刊を記念した落語会を開催します。

出演は、柳家花緑さん、藤井青銅さん、ナガオカケンメイさんです。

日時 = 12月14日(木)午後7時30分

費用 = 3,000円 (当日は3,500円)

申し込み = D&DEPARTMENT PROJECT へ

